

11/7 (木) ver

Weingerten 回転面の分類

伊坂 麻琴

1 de Sitter 空間の導入

定義. 1.1. 自然基底 $e_1 = (1, 0, \dots, 0), \dots, e_n = (0, \dots, 1, 0), e_{n+1} = (0, \dots, 0, 1)$ を持つ \mathbb{E}_1^{n+1} を $(n+1)$ 次元ミンコフスキ空空間とし、計量 $\langle \cdot, \cdot \rangle$ を、

$$\bar{G}(x, y) = \langle x, y \rangle = \sum_{i=1}^n x_i y_i - x_{n+1} y_{n+1} \quad x, y \in \mathbb{E}_1^{n+1}$$

$$\begin{bmatrix} 1 & & & & \\ & 1 & & & \\ & & 1 & & \\ & & & \ddots & \\ & & & & -1 \end{bmatrix}$$

とする。(ただし、 $x = (x_1, \dots, x_{n+1}), y = (y_1, \dots, y_{n+1})$ とする。)

定義. 1.2. \mathbb{E}_1^{n+1} を $(n+1)$ 次元ミンコフスキ空空間とする。このとき、

$$\mathbb{S}_1^n := \{x \in \mathbb{E}_1^{n+1}; \langle x, x \rangle = 1\} \quad (1.1)$$

とする。これを n 次元 de Sitter space という。

M を連結で向き付けられた 2 次元以上の多様体とし、 $x : M \rightarrow \mathbb{S}^{n+1}$ をはめ込みとする。

定義. 1.3. x が空間的であるとは、 $x^* \langle \cdot, \cdot \rangle$ が M 上リーマン計量になるときである。また、 x が時間的であるとは、 $x^* \langle \cdot, \cdot \rangle$ が M 上ローレンツ計量になるときである。

定義. 1.4. $x : M^2 \rightarrow \mathbb{S}_1^3$ が空間的もしくは時間的のとき、非退化超曲面という。

$x : M^2 \rightarrow \mathbb{S}_1^3$ を空間的とする。このとき、 x, x_u, x_v, ξ , $((u, v) \in M^2)$ が定まり、 ξ は

$$\begin{aligned} \langle \xi, \xi \rangle &= -1 \\ \langle \xi, x \rangle &= \langle \xi, x_u \rangle = \langle \xi, x_v \rangle = 0 \end{aligned}$$

をみたす。さらに、

$$\begin{aligned} E &:= \langle x_u, x_u \rangle & L &:= \langle x_{uu}, \xi \rangle \\ F &:= \langle x_u, x_v \rangle & M &:= \langle x_{uv}, \xi \rangle \\ G &:= \langle x_v, x_v \rangle & N &:= \langle x_{vv}, \xi \rangle \end{aligned}$$

と定める。ワインガルテン公式より

$$\hat{\Gamma} = \begin{bmatrix} E & F \\ F & G \end{bmatrix} \quad \begin{aligned} \xi_u &= Bx_u + Cx_v \\ \xi_v &= B'x_u + C'x_v \end{aligned}$$

と書ける。

注意 1.1. x が時間的の場合, $\langle \xi, \xi \rangle = 1$ である.

定義. 1.5.

$$A = (dx^{-1}) \circ (-d\xi) = (dx^{-1})(-(\xi_u du + \xi_v dv)) : T_p M \rightarrow T_p M \quad (1.2)$$

と定める. この A を *shape operator* という.

定義. 1.6. A の固有値を主曲率という.

命題 1.1. A は

$$A = \begin{pmatrix} E & F \\ F & G \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} L & M \\ M & N \end{pmatrix}$$

をみたす.

Proof. 定義 1.5 より,

$$\xi_u = -A_1^1 x_u - A_1^2 x_v \quad (1.3)$$

$$\xi_v = -A_2^1 x_u - A_2^2 x_v \quad (1.4)$$

と書ける. また, (1.3), (1.4) と x_u, x_v を内積することで,

$$-L = \langle x_u, \xi_u \rangle = -A_1^1 E - A_1^2 F$$

を得る. 同様に計算することで,

$$\begin{array}{ll} A_1^1 E + A_1^2 F = L & A_2^1 E + A_2^2 F = M \\ A_1^1 F + A_1^2 G = M & A_2^1 F + A_2^2 G = N \end{array}$$

を得ることができ, 方程式を解くことで

$$A = \begin{pmatrix} A_1^1 & A_2^1 \\ A_1^2 & A_2^2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} E & F \\ F & G \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} L & M \\ M & N \end{pmatrix}$$

を得る. \square

定理. 1.1. $\begin{pmatrix} E & F \\ F & G \end{pmatrix}$ が正定値ならば, A の固有値は実数である.

Proof. $\begin{pmatrix} E & F \\ F & G \end{pmatrix} = \hat{I}$, $\begin{pmatrix} L & M \\ M & N \end{pmatrix} = \hat{II}$ とおく. \hat{I} は正定値対称行列なので, ある直交行列 P が存在し,

$$P^{-1} \hat{I} P = \begin{pmatrix} \omega^2 & 0 \\ 0 & \rho^2 \end{pmatrix} \quad (\omega, \rho > 0) \quad (1.5)$$

と書ける. $\hat{I} = P \begin{pmatrix} \omega^2 & 0 \\ 0 & \rho^2 \end{pmatrix} P^{-1}$, $R := P \begin{pmatrix} \omega & 0 \\ 0 & \rho \end{pmatrix} P^{-1}$ とおく. このとき,

$$\begin{aligned} RAR^{-1} &= R \hat{I}^{-1} \hat{II} R^{-1} \\ &= PGP^{-1} \hat{II} PGP^{-1} \\ &:= S \end{aligned}$$

と置く。ただし、 $G := \begin{pmatrix} \frac{1}{\omega} & 0 \\ 0 & \frac{1}{\rho} \end{pmatrix}$ である。この転置行列を考えると、

$$\begin{aligned} S^t &= (PGP^{-1} \hat{\Pi} PGP^{-1})^t \\ &= PGP^{-1} \hat{\Pi} PGP^{-1} \\ &= S \end{aligned}$$

となるので、 S は対称行列である。共役な行列の固有値は一致し、対称行列の固有値は実数であるので、対称行列 S と共になる A の固有値は実数である。

□

注意 1.2. $\begin{pmatrix} E & F \\ F & G \end{pmatrix}$ がローレンツならば、 A の固有値は実数とは限らない。

注意 1.3. 以上の議論を踏まえると、 A は、

- (i) 対角化可能で固有値実数
- (ii) 対角化可能で固有値虚数
- (iii) 対角化不可能

の 3 つに場合分けされるが、今回の論文では x は空間系であるため、(i) の場合を考えればよい。

定義 1.7. $x : M \rightarrow S_1^{n+1}$ を非退化超曲面、主曲率 k_1, \dots, k_n を実数とする。この時、ある関数 f が存在し、

$$k_i = f(k_1, k_2, \dots, k_{i-1}, k_{i+1}, \dots, k_n)$$

となるとき、 x を Weingarten 超曲面とよぶ。

命題 1.2. 平均曲率一定曲面は Weingarten 超曲面である。

定義 1.8. ローレンツ直交群 $O(3, 1)$ とローレンツ特殊直交群 $SO(3, 1)$ を

$$\left. \begin{array}{l} O(3, 1) = \{A \in M_4(\mathbb{R}) \mid A^t Z A = Z\} \\ SO(3, 1) = \{A \in O(3, 1) \mid \det A = 1\} \end{array} \right\} Z = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}$$

とする。
ただし、 $Z = \star$ である。

$P^k (k = 2, 3)$ を原点を通る \mathbb{E}_1^4 の k 次元部分空間、 $O(P^2)$ を P^2 を各点ごとに固定するローレンツ特殊直交群とする。

定義 1.9. $P^2 \subset P^3, P^3 \cap \mathbb{S}_1^3 \neq \emptyset$ となるように P^2, P^3 を選ぶ。 $P^3 \cap \mathbb{S}_1^3$ において、 P^2 と交わらない正則 C^2 曲線を C とする。

$$O(P^2) = \left\{ \left. \begin{pmatrix} \cos v & -\sin v & 0 & 0 \\ \sin v & \cos v & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \right| v \in \mathbb{R} \right\} \subset SO(3, 1)$$

の作用下での C の軌道

$$O(P^2)C = \left\{ \begin{pmatrix} \cos v & -\sin v & 0 & 0 \\ \sin v & \cos v & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 \\ x_2(u) \\ x_3(u) \\ x_4(u) \end{pmatrix} \middle| u \in J, v \in R \right\} \in E_1^4$$

が E_1^4 からの誘導計量 G により非退化になる場合、その軌道を P^2 の周りに C によって生成される S^3_1 の回転面 M と呼ばれる。さらに、 $\bar{G}|_{P^2}$ がローレンツ計量（リーマン計量、退化した 2 次形式）である場合、曲面 M は橙円的（双曲的・放物的）であると言う。

これから、3 次元 de Sitter 空間における Weingarten 回転面の関数の決定について証明を与える。

2 S^3_1 における橙円的回転面

定理. 2.1. M を 3 次元 de sitter space の Weingarten 橙円面とすると、 M の主曲率 k_1, k_2 は、 $k_2 = f(k_1)$ を満たし、以下の橙円的回転面として書くことができる。

(i) $y(u) > 1, y \neq 0, y \neq 1$ のとき

$$\begin{aligned} r(u, v) &= (y(u) \sin v, y(u) \cos v, z(u), w(u)), & u \in J, & v \in [0, 2\pi] \\ z(u) &= (y(u)^2 - 1)^{1/2} \sinh \varphi(u) \\ w(u) &= (y(u)^2 - 1)^{1/2} \cosh \varphi(u) \\ \varphi(u) &= \int_0^u \frac{(\epsilon y(t)^2 + y'(t)^2 - \epsilon)^{1/2}}{(y(t)^2 - 1)} dt \\ y(u) &= \exp\left(\int_0^u \frac{dt}{\epsilon f(t) - t}\right) \end{aligned}$$

(ii) $0 < y(u) < 1, y \neq 0, y \neq 1$ のとき

$$\begin{aligned} r(u, v) &= (y(u) \sin v, y(u) \cos v, z(u), w(u)), & u \in J, & v \in [0, 2\pi] \\ z(u) &= (1 - y(u)^2)^{1/2} \cosh \varphi(u) \\ w(u) &= (1 - y(u)^2)^{1/2} \sinh \varphi(u) \\ \varphi(u) &= \int_0^u \frac{(\epsilon y(t)^2 + y'(t)^2 - \epsilon)^{1/2}}{(y(t)^2 - 1)} dt \\ y(u) &= \exp\left(\int_0^u \frac{dt}{\epsilon f(t) - t}\right) \end{aligned}$$

ここで、 $\epsilon = \pm 1$ であり、 $\epsilon = 1$ のとき、曲面は spacelike であり、 $\epsilon = -1$ のとき、曲面は timelike である。

Proof. P^2 を E_1^4 のローレンツ部分空間とすると、 P^2, P^3 は一般性を失わず以下のように書ける。

$$\begin{aligned} P^2 &= \text{span}(e_3, e_4) \\ P^3 &= \text{span}(e_2, e_3, e_4) = (0, x_2, x_3, x_4) \in E_1^4 \end{aligned}$$

また、

$$S_1^3 = \{(x_1, x_2, x_3, x_4) \in \mathbb{E}_1^4 \mid x_1^2 + x_2^2 + x_3^2 - x_4^2 = 1\}$$

より、

$$S_1^3 \cap P^3 = \{(0, x_2, x_3, x_4) \in \mathbb{E}_1^4 \mid x_2^2 + x_3^2 - x_4^2 = 1\}$$

となり、このうちの曲線 $(0, x_2(u), x_3(u), x_4(u)) = \gamma(u)$ が P^2 と交わらないのは、 $x_2(u) \neq 0$ となるときである。

定義. 2.1. $\textcircled{T}(x) = Ax + b$ (ただし A は 4 次正方行列で

$$A^t Z A = Z \quad Z = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}$$

を満たす。ものを \mathbb{E}_1^4 の直交変換群と呼び、直交変換群全体のなす集合を $O(\mathbb{E}_1^4)$ と表す。

補題 2.1.

導入理由?

$$A = \begin{pmatrix} \cos v & -\sin v & 0 & 0 \\ \sin v & \cos v & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

とすると、 $A \in SO(3, 1)$ かつ $A \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix}$ を満たす。

よって、

$$O(P^2) = \left\{ \begin{pmatrix} \cos v & -\sin v & 0 & 0 \\ \sin v & \cos v & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \middle| v \in \mathbb{R} \right\}$$

とすると、

$$A\gamma(u) = \begin{pmatrix} \cos v & -\sin v & 0 & 0 \\ \sin v & \cos v & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x_2 \sin v \\ x_2 \cos v \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix}$$

以上の議論により、

$$r(u, v) = (y(u) \sin v, y(u) \cos v, z(u), w(u)), \quad u \in J, \quad v \in [0, 2\pi] \quad (2.1)$$

を得る。以降、この曲面を M_1 とする。

補題 2.2. 曲面 M_1 に対して法線ベクトル場 ξ_1 は,

$$\xi_1(u, v) = \begin{pmatrix} (z'(u)w(u) - w'(u)z(u)) \sin v \\ (z'(u)w(u) - w'(u)z(u)) \cos v \\ w'(u)y(u) - y'(u)w(u) \\ z'(u)y(u) - y'(u)z(u) \end{pmatrix} \quad (2.2)$$

と, $\langle \xi_1, r_u \rangle = \langle \xi_1, r_v \rangle = \langle \xi_1, r \rangle = 0$, $\langle \xi_1, \xi_1 \rangle = -\epsilon$ が成立する. ただし, $r_u = \frac{\partial r(u, v)}{\partial u}$, $r_v = \frac{\partial r(u, v)}{\partial v}$ である.

Proof. $r(u, v) = (y(u) \sin v, y(u) \cos v, z(u), w(u))$ のとき,

$$\langle r, r \rangle = y^2 + z^2 - w^2 = 1 \quad (2.3)$$

$$r_u = (y'(u) \sin v, y' \cos v, z'(u), w'(u)) \quad (2.4)$$

$$r_v = (y(u) \cos v, -y(u) \sin v, 0, 0) \quad (2.5)$$

となり, 第 1 基本量はそれぞれ

$$\langle r_u, r_u \rangle = y'(u)^2 + z'(u)^2 - w'(u)^2 = \epsilon \quad (2.6)$$

$$\langle r_v, r_v \rangle = y^2 \quad (2.7)$$

$$\langle r_u, r_v \rangle = 0 \quad (2.8)$$

である. 特に, $\langle r_v, r_v \rangle = y^2 > 0$ より, $y(u) > 0$ としてよい. よって,

$$\begin{aligned} |r_u \times r_v| &= \sqrt{|\langle r_u, r_u \rangle \langle r_v, r_v \rangle - \langle r_u, r_v \rangle^2|} \\ &= y(u) \end{aligned}$$

また,

$$r_u \times r_v = \begin{pmatrix} (z'(u)w(u) - w'(u)z(u)) \sin v \\ (z'(u)w(u) - w'(u)z(u)) \cos v \\ w'(u)y(u) - y'(u)w(u) \\ z'(u)y(u) - y'(u)z(u) \end{pmatrix} y(u)$$

であるので,

$$\xi_1 = \frac{r_u \times r_v}{\sqrt{r_u \times r_v}} = \begin{pmatrix} (z'(u)w(u) - w'(u)z(u)) \sin v \\ (z'(u)w(u) - w'(u)z(u)) \cos v \\ w'(u)y(u) - y'(u)w(u) \\ z'(u)y(u) - y'(u)z(u) \end{pmatrix}$$

となる. \square

主曲率を求めるために第 2 基本量を計算する.

曲面 M_1 に対し,

$$r_{uu} = (y''(u) \sin v, y''(u) \cos v, z''(u), w''(u))$$

$$r_{vv} = (-y(u) \sin v, -y(u) \cos v, 0, 0)$$

$$r_{uv} = (y'(u) \cos v, -y'(u) \sin v, 0, 0)$$

と、(2.2) より、

$$\begin{aligned}\langle \xi_1, r_{uu} \rangle &= y''(z'w - w'z) + z''(w'y - y'w) - w''(z'y - y'z) \\ &= y(z''w' - w''z') - y'(z''w - w''z) + y''(z'w - w'z)\end{aligned}\quad (2.9)$$

$$\langle \xi_1, r_{vv} \rangle = -y(z'w - w'z) \quad (2.10)$$

$$\langle \xi_1, r_{uv} \rangle = 0 \quad (2.11)$$

(2.6) ~ (2.8), (2.9) ~ (2.11) を用いて主曲率 k_1, k_2 を計算すると、

$$k_1 = \epsilon(y''(z'w - w'z) + z''(w'y - y'w) - w''(z'y - y'z)) \quad (2.12)$$

$$= \epsilon(y(z''w' - w''z') - y'(z''w - w''z) + y''(z'w - w'z)) \quad (2.13)$$

$$k_2 = -y^{-1}(z'w - w'z) \quad (2.14)$$

となる。

次に、 y, z, w の関数の決定を行う。 $y(u) > 0$ であることに注意し、 $y(u) \neq 1$ であると仮定する。

$\langle r, r \rangle = y^2 + z^2 - w^2 = 1$ を用いると、

$$\begin{cases} (\text{i}) y(u) > 1 \text{ のとき}, \\ z(u) = (y(u)^2 - 1)^{1/2} \sinh \varphi(u) \\ w(u) = (y(u)^2 - 1)^{1/2} \cosh \varphi(u) \end{cases} \quad \begin{cases} (\text{ii}) 0 < y(u) < 1 \text{ のとき} \\ z(u) = (1 - y(u)^2)^{1/2} \cosh \varphi(u) \\ w(u) = (1 - y(u)^2)^{1/2} \sinh \varphi(u) \end{cases}$$

の 2 つを考えることができる。

はじめに (i) の場合において各関数を決定する計算を記す。

(i) のとき、(2.6) に代入することで、 $\langle r_u, r_u \rangle = y'(u)^2 + z'(u)^2 - w'(u)^2 = \epsilon$

$$\varphi'(u)^2 = \frac{(\epsilon y^2 + y'^2 - \epsilon)}{(y^2 - 1)^2} \quad (2.14)$$

を得る。 J 上で $\epsilon y^2 + y'^2 - \epsilon > 0$ と仮定する。(任意の $u \in J$ に対し $\epsilon y(u)^2 + y(u)^2 - \epsilon = 0$ のとき φ は定数) よって、関数 $\varphi(u)$ は

$$\begin{aligned}\epsilon y^2 + y'^2 - \epsilon &> 0 \\ \varphi(u) &= \pm \int_0^u \frac{(\epsilon y^2 + y'^2 - \epsilon)^{1/2}}{y(t)^2 - 1} dt\end{aligned}$$

となる。このとき、一般性を失うことなく、符号は正と仮定してよい。(命題 7.1 を参照) よって、

$$\begin{aligned}\epsilon y^2 + y'^2 - \epsilon &> 0 \\ \varphi(u) &= \int_0^u \frac{(\epsilon y^2 + y'^2 - \epsilon)^{1/2}}{y(t)^2 - 1} dt\end{aligned} \quad (2.15)$$

となる。さらに、

(i) の関数と、(2.3), (2.6), (2.15) を用いることで、

$$z'w - w'z = (\epsilon y^2 + y'^2 - \epsilon)^{1/2} \quad (2.16)$$

$$z''w - w''z = \frac{\epsilon yy' + y'y''}{z'w - w'z} \quad (2.17)$$

を得る。さらに、(2.3), (2.6) を微分すると、

$$\left\{ \begin{array}{l} yy' + zz' = ww' \\ yy'' + zz'' = ww'' - \epsilon \\ yy'' + zz'' = w'w'' \\ (z'w - w'z)z'' = -wy'y'' + w'(\epsilon + yy'') \\ (z'w - w'z)w'' = z'(yy'' + \epsilon) - zy'y'' \end{array} \right.$$

より、

となるので、これらを組み合わせることで

$$z''w' - w''z' = \frac{-\epsilon yy'' + \epsilon y'^2 - 1}{z'w - w'z} \quad (2.18)$$

を得る。

(2.16)~(2.18) を (2.12), (2.13) に代入し、主曲率 k_1, k_2 は、

$$\begin{aligned} k_1 &= \epsilon(y(z''w' - w''z') - y'(z''w - w''z) + y''(z'w - w'z)) \\ &= \epsilon \frac{-\epsilon y'' - y}{(\epsilon yy' + \epsilon y^2 - 1)^{1/2}} \\ &= \epsilon \frac{\epsilon y'' + y}{ty} \\ &=: \epsilon f(t) \end{aligned} \quad (2.19)$$

$$\begin{aligned} k_2 &= -y^{-1}(z'w - w'z) \\ &= -y^{-1}(\epsilon yy' + \epsilon y^2 - 1)^{1/2} \\ &=: t \end{aligned} \quad (2.20)$$

となる。また、(2.20) より

$$\begin{aligned} y' &= \sqrt{t^2 y^2 - \epsilon y^2 + \epsilon} \\ y'' &= \frac{t^2 yy' + tt'y^2 - \epsilon yy'}{y'} \\ &= t^2 y - \epsilon y + y^2 t \frac{t'}{y'} \end{aligned} \quad (2.21)$$

を得る。以上の結果を (2.19) と (2.21) に代入することにより、 $k_1 = f(t)$ のとき、

$$\begin{aligned} f(t) - t &= \frac{y'' + \epsilon y}{ty} - t \\ &= y \frac{t'}{y'} \end{aligned} \quad (\epsilon = 1 \text{ 代入}) \quad (2.22)$$

$k_1 = -f(t)$ のとき、

$$\begin{aligned} -f(t) - t &= \frac{y'' + \epsilon y}{ty} - t \\ &= y \frac{t'}{y'} \end{aligned} \quad (\epsilon = -1 \text{ 代入}) \quad (2.23)$$

(ii) $0 < y(u) < 1, y \neq 0, y \neq 1$ のとき

$$\begin{aligned} r(u, v) &= (y(u) \sin v, y(u) \cos v, z(u), w(u)), \quad u \in J, \quad v \in [0, 2\pi] \\ z(u) &= (1 - y(u)^2)^{1/2} \cosh \varphi(u) \\ w(u) &= (1 - y(u)^2)^{1/2} \sinh \varphi(u) \\ \varphi(u) &= \int_0^u \frac{(\epsilon y(t)^2 + y'(t)^2 - \epsilon)^{1/2}}{(y(t)^2 - 1)} dt \\ y(u) &= \exp\left(\int_0^u \frac{dt}{\epsilon f(t) - t}\right) \end{aligned}$$

を得る. □

3 \mathbb{S}_1^3 における双曲的回転面

定理. 3.1. M を 3 次元 de sitter space の Weingarten 双曲面とすると, M の主曲率 k_1, k_2 は $k_2 = f(k_1)$ を満たし, 以下の双曲的回転面として書くことができる.

(i) ~~$w \neq 0, x \neq 0, y \neq 0$~~ のとき,

~~曲面の假定から~~

$$\begin{aligned} r(u, v) &= (x(u), y(u), w(u) \sinh v, w(u) \cosh v) \quad u \in J, \quad v \in \mathbf{R} \\ x(u) &= (w(u)^2 + 1)^{1/2} \cos \varphi(u) \\ y(u) &= (w(u)^2 + 1)^{1/2} \sin \varphi(u) \\ \varphi(u) &= \int_0^u \frac{(\epsilon w(t)^2 + w'(t)^2 + \epsilon)^{1/2}}{w(t)^2 + 1} dt \\ w(u) &= \exp\left(\int_0^u \frac{dt}{\epsilon f(t) - t}\right) \end{aligned}$$

ここで, $\epsilon = 1$ のとき, 曲面は spacelike であり, $\epsilon = -1$ のとき, 曲面は timelike である.

(ii) $0 < w(u) < 1, w \neq 0, w \neq 1$ のとき

$$\begin{aligned} r(u, v) &= (x(u), y(u), w(u) \cosh v, \sinh v) \quad u \in J, \quad v \in \mathbf{R} \\ x(u) &= (1 - w(u)^2)^{1/2} \cos \varphi(u) \\ y(u) &= (1 - w(u)^2)^{1/2} \sin \varphi(u) \\ \varphi(u) &= \int_0^u \frac{(1 - w(t)^2 - w'(t)^2)^{1/2}}{w(t)^2 - 1} dt \\ w(u) &= \exp\left(\int_0^u \frac{dt}{-f(t) - t}\right) \end{aligned}$$

この時, 曲面は spacelike である.

Proof. 初めに定理 3.1 の前半を示す. P^2 を \mathbb{E}_1^4 のローレンツ部分空間とすると, P^2, P^3 は一般性を失わず以下のように書ける.

$$\begin{aligned} P^2 &= \text{span}(e_1, e_2) \\ P^3 &= \text{span}(e_1, e_2, e_3) = (x_1, x_2, x_3, 0) \in \mathbb{E}_1^4 \\ S_1^3 \cap P^3 &= \{(x_1, x_2, x_3, x_4) \in \mathbb{E}_1^4 | x_1^2 + x_2^2 + x_3^2 = 1\} \end{aligned}$$

よって、曲線 $(x_1, x_2, x_3, 0) = \gamma(u)$ が P^2 と交わらないのは、 $x_3(u) \neq 0$ となるときである。さらに、

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & \cosh v & \sinh v \\ 0 & 0 & \sinh v & \cosh v \end{pmatrix}$$

とすると、補題 2.1 と同様の議論により

$$r(u, v) = (x(u), y(u), w(u) \sinh v, w(u) \cosh v) \quad u \in J, \quad v \in \mathbf{R} \quad (3.1)$$

を得る。以降、この曲面を M_2 とする。さらに、 P^3 を取り換えることにより、

$$r(u, v) = (x(u), y(u), w(u) \cosh v, w(u) \sinh v) \quad u \in J, \quad v \in \mathbf{R} \quad (3.2)$$

を得る。この曲面を M_3 とする。

補題 3.1. 曲面 M_2 に対して法線ベクトル場 ξ_2 は、

$$\xi_2(u, v) = \begin{pmatrix} y'(u)w(u) - w'(u)y(u) \\ w'(u)x(u) - x'(u)w(u) \\ (y'(u)x(u) - x'(u)y(u)) \sinh v \\ (y'(u)x(u) - x'(u)y(u)) \cosh v \end{pmatrix} \quad (3.3)$$

と、 $\langle \xi_1, r_u \rangle = \langle \xi_1, r_v \rangle = \langle \xi_1, r \rangle = 0$, $\langle \xi_1, \xi_1 \rangle = -\epsilon$ が成立する。ただし、 $r_u = \frac{\partial r(u, v)}{\partial u}$, $r_v = \frac{\partial r(u, v)}{\partial v}$ である。

主曲率を求めるために第1基本量と第2基本量を計算する。曲面 M_2 に対し、

$$\langle r, r \rangle = x^2 + y^2 - w^2 = 1 \quad (3.4)$$

$$r_u = (x'(u), y'(u), w'(u) \sinh v, w'(u) \cosh v) \quad (3.5)$$

$$r_v = (0, 0, w(u) \cosh v, w(u) \sinh v) \quad (3.6)$$

より、

$$\langle r_u, r_u \rangle = x'(u)^2 + y'(u)^2 - w'(u)^2 = \epsilon \quad (3.7)$$

$$\langle r_v, r_v \rangle = w(u)^2 \quad (3.8)$$

$$\langle r_u, r_v \rangle = 0 \quad (3.9)$$

である。特に、 $\langle r_v, r_v \rangle = w(u)^2 > 0$ より、 $w(u) > 0$ としてよい。

さらに,

$$r_{uu} = (x''(u), y''(u), w''(u) \sinh v, w''(u) \cosh v)$$

$$r_{uv} = (0, 0, w'(u) \cosh v, w'(u) \sinh v)$$

$$r_{vv} = (0, 0, w(u) \sinh v, w(u) \cosh v)$$

より、補題 3.1 を用いることで、

$$\begin{aligned} \langle \xi_2, r_{uu} \rangle &= x''(y'w - w'y) + y''(w'x - x'w) - w''(y'x - x'y) \\ &= w(x''y' - y''x) + w'(y''x - x''y) - w''(y'x - x'y) \end{aligned} \quad (3.10)$$

$$\langle \xi_2, r_{vv} \rangle = -w(y'x - x'y) \quad (3.11)$$

$$\langle \xi_2, r_{uv} \rangle = 0 \quad (3.12)$$

を得る。以上より、(3.7) ~ (3.9), (3.10) ~ (3.12) を用いて主曲率 k_1, k_2 を計算すると、

$$k_1 = \epsilon\{w(x''y' - y''x) + w'(y''x - x''y) - w''(y'x - x'y)\} \quad (3.13)$$

$$k_2 = -w^{-1}(y'x - x'y) \quad (3.14)$$

を得る。

次に、 y, z, w の関数の決定を行う。 $w(u) > 0$ であることに注意する。 $\langle r, r \rangle = x^2 + y^2 - w^2 = 1$ を用いると、

$$x^2 + y^2 = w^2 + 1$$

$$x(u) = (w(u)^2 + 1)^{1/2} \cos \varphi(u) \quad (3.15)$$

$$y(u) = (w(u)^2 + 1)^{1/2} \sin \varphi(u) \quad (3.16)$$

を得る。また、この関数を (3.7) に代入することで、

$$\varphi'(u)^2 = \frac{\epsilon w^2 + w'^2 + \epsilon}{(w^2 + 1)^2}$$

を得る。 J 上で $\epsilon w^2 + w'^2 + \epsilon > 0$ と仮定する。(任意の $u \in J$ に対し、 $\epsilon w^2 + w'^2 + \epsilon = 0$ のとき、 φ は定数。) よって、関数 $\varphi(u)$ は

$$\begin{aligned} \epsilon w^2 + w'^2 + \epsilon &> 0 \\ \varphi(u) &= \pm \int_0^u \frac{(\epsilon w^2 + w'^2 + \epsilon)^{1/2}}{w^2 + 1} \end{aligned}$$

となる。このとき、一般性を失うことなく、符号は正と仮定して良い。(命題 7.1 を参照) よって、

$$\begin{aligned} \epsilon y^2 + y'^2 - \epsilon &> 0 \\ \varphi(u) &= \int_0^u \frac{(\epsilon w^2 + w'^2 + \epsilon)^{1/2}}{w^2 + 1} \end{aligned} \quad (3.17)$$

となる。 $(3.15), (3.16), (3.4), (3.7), (3.17)$ を用いることで、

$$y'x - xy = (\epsilon w^2 + w'^2 + \epsilon)^{1/2} \quad (3.18)$$

$$y''x - x''y = \frac{(\epsilon w w' + w' w'')}{y'x - xy} \quad (3.19)$$

$$x''y - y''x = \frac{\epsilon w w'' + \epsilon w'^2 - 1}{y'x - xy} \quad (3.20)$$

を得るので、(3.18)～(3.20)を主曲率(3.13), (3.14)に代入することで、

$$k_1 = \epsilon \frac{w + \epsilon w''}{tw} \quad (3.21)$$

$$=: f(t) \quad (3.22)$$

$$k_2 = -w^{-1}(\epsilon w^2 + w'^2 + \epsilon)^{1/2} =: t \quad (3.23)$$

となる。以降、定理2.1と同様の計算により

$$w(u) = \exp\left(\int_0^u \frac{dt}{\epsilon f(t) - t}\right) \quad (3.24)$$

を得る。以上より、定理3.1の前半を得る。

次に、定理3.1の後半を示す。

補題3.2. 曲面 M_3 に対して法線ベクトル ξ_3 は、

$$\begin{pmatrix} w'(u)y(u) - y'(u)w(u) \\ x'(u)w(u) - w'(u)x(u) \\ (y'(u)x(u) - x'(u)y(u)) \cosh v \\ (y'(u)x(u) - x'(u)y(u)) \sinh v \end{pmatrix}$$

と、 $\langle \xi_1, r_u \rangle = \langle \xi_1, r_v \rangle = \langle \xi_1, r \rangle = 0$, $\langle \xi_1, \xi_1 \rangle = 1$ が成立する。ただし、 $r_u = \frac{\partial_r(u, v)}{\partial_u}$, $r_v = \frac{\partial_r(u, v)}{\partial_v}$ である。ここで、 M_3 は timelike であるので、 $\epsilon = -1$ を用いた。

主曲率を求めるために第1基本量と第2基本量を計算する。曲面 M_3 に対し、

$$\langle r, r \rangle = x^2 + y^2 + w^2 = 1 \quad (3.25)$$

$$r_u = (x'(u), y'(u), w'(u) \cosh v, w'(u) \sinh v) \quad (3.26)$$

$$r_v = (0, 0, w(u) \sinh v, w(u) \cosh v) \quad (3.27)$$

より、

$$\langle r_u, r_u \rangle = x'(u)^2 + y'(u)^2 + w'(u)^2 = 1 > 0 \quad (3.28)$$

$$\langle r_v, r_v \rangle = w(u)^2 \quad (3.29)$$

$$\langle r_u, r_v \rangle = 0 \quad (3.30)$$

である。特に、 $\langle r_v, r_v \rangle = w(u)^2 > 0$ より、 $w(u) > 0$ としてよい。

さらに、

$$r_{uu} = (x''(u), y''(u), w''(u) \cosh v, w''(u) \sinh v)$$

$$r_{uv} = (0, 0, w'(u) \sinh v, w'(u) \cosh v)$$

$$r_{vv} = (0, 0, w(u) \cosh v, w(u) \sinh v)$$

より、補題3.2を用いることで、

$$\langle \xi_2, r_{uu} \rangle = w(y''x' - x''y') + w'(x''y - y''x) + w''(y'x - x'y) \quad (3.31)$$

$$\langle \xi_2, r_{vv} \rangle = w(y'x - x'y) \quad (3.32)$$

$$\langle \xi_2, r_{uv} \rangle = 0 \quad (3.33)$$

を得る。以上より、(3.28) ~ (3.30), (3.31) ~ (3.33) を用いて主曲率 k_1, k_2 を計算すると、

$$k_1 = \epsilon \{ w(y''x' - x''y') + w'(x''y - y''x) + w''(y'x - x'y) \} \quad (3.34)$$

$$k_2 = w^{-1}(x'y - y'x) \quad (3.35)$$

を得る。次に y, z, w の関数の決定を行う。 $w(u) > 0$ であることに注意し、 $w(u) \neq 1$ であると仮定する。 $\langle r, r \rangle = x^2 + y^2 + w^2 = 1$ を用いると、 $w^2 - 1 = -(x^2 + y^2)$ となり右辺は負であるから、左辺も負であるので、

$$0 < w(u) < 1 \quad (3.36)$$

$$x(u) = (1 - w(u)^2)^{1/2} \cos \varphi(u) \quad (3.37)$$

$$y(u) = (1 - w(u)^2)^{1/2} \sin \varphi(u) \quad (3.38)$$

を代入することができる。また、この関数を (3.28) に代入することで、

$$\varphi'(u)^2 = \frac{1 - w^2 - w'^2}{(1 - w^2)^2} \quad (3.39)$$

を得る。 J 上で $1 - w^2 - w'^2 > 0$ と仮定する。 $(1 - w^2 - w'^2 = 0)$ の時、 φ は定数。よって、関数 $\varphi(u)$ は

$$\begin{aligned} 1 - w^2 - w'^2 &> 0 \\ \varphi(u) &= \pm \int_0^u \frac{(1 - w^2 - w'^2)^{1/2}}{(1 - w(t))^2} dt \end{aligned}$$

となる。このとき、一般性を失うことなく符号は負と仮定して良い。(命題 7.1 を参照) よって、

$$1 - w^2 - w'^2 > 0 \quad (3.40)$$

$$\varphi(u) = \int_0^u \frac{(1 - w^2 - w'^2 > 0)^{1/2}}{(w(t))^2 - 1} dt \quad (3.41)$$

となる。これまでの議論と同様に、

$$x'y - y'x = (1 - w^2 - w'^2)^{1/2} \quad (3.42)$$

$$x''y - y''x = \frac{-ww' - w'w''}{x'y - y'x} \quad (3.43)$$

$$x''y' - y''x' = \frac{1 + ww'' - w'^2}{x'y - y'x} \quad (3.44)$$

を得るので、主曲率 k_1, k_2 は

$$k_1 = \epsilon \left\{ \frac{-w - w''}{x'y - y'x} \right\} \quad (3.45)$$

$$:= \epsilon \left(\frac{w + w'}{wt} \right) := f(t) \quad (3.46)$$

$$k_2 = w^{-1}(1 - w^2 - w'^2)^{1/2} := t \quad (3.47)$$

となり、

$$w(u) = \exp \left(\int_0^u \frac{dt}{-f(t) - t} \right) \quad (3.48)$$

を得る。以上より、定理 3.1 を得る。 \square

$$\begin{bmatrix} & 2 \\ 1 & & 2 \\ & -1 & -1 \end{bmatrix}$$

$$O(2,2) \quad SO(2,2)$$

4 anti de Sitter 空間の導入

定義. 4.1. 自然基底 $e_1 = (1, 0, 0, 0), e_2 = (0, 1, 0, 0), e_3 = (0, 0, 1, 0), e_4 = (0, 0, 0, 1)$ を持つ E_2^4 を 4 次元擬ユークリッド空間とし、計量 \langle , \rangle を、

$$\bar{G}(x, y) = \langle x, y \rangle = x_1y_1 + x_2y_2 - x_3y_3 - x_4y_4 \quad x, y \in E_2^4$$

とする。(ただし、 $x = (x_1, \dots, x_4), y = (y_1, \dots, y_4)$ とする。)

定義. 4.2. E_2^4 を 4 次元擬ユークリッド空間とする。このとき、

$$\mathbb{H}_1^3 = \{x \in E_2^4; \langle x, x \rangle = -1\} \quad (4.1)$$

とする。これを、3 次元 anti de Sitter 空間という。

M を連結で向き付けられた 2 次元以上の多様体とし、 $x : M \rightarrow \mathbb{H}^{n+1}$ をはめ込みとし、 $P^k (k = 2, 3)$ を原点を通る E_2^4 の k 次元部分空間、 $O(P^2)$ を P^2 を各点ごとに固定する正の行列式を持つ E_2^4 の直交変換群とする。

$$(\mathbb{H}_1^3)$$

定義. 4.3. $P^2 \subset P^3, P^3 \cap \mathbb{H}_1^3 \neq 0$ となるように P^2 と P^3 を選ぶ。 $P^3 \cap \mathbb{H}_1^3$ において P^2 と交わらない正則 C^2 曲線を C とする。 $O(P^2)$ の作用下での C の軌道が E_2^4 からの誘導計量 G により非退化になる場合、その軌道を P^2 の周りに C によって生成される \mathbb{H}_1^3 の回転面 M と呼ばれる。さらに、 \bar{G} を P^2 に制限したものが definite 計量(ローレンツ計量)である場合、曲面 M は橙円的(双曲的)であるという。

これから、3 次元 anti de Sitter 空間における Weingarten 回転面の関数の決定について証明を与える。

5 \mathbb{H}_1^3 における橙円的回転面

定理. 5.1. M を 3 次元 anti de Sitter space の Weingarten 橙円面とすると、 M の主曲率 k_1, k_2 は $k_2 = f(k_1)$ を満たし、以下の橙円的回転面として書くことができる。

(i) negative definite で $x \neq 0$ のとき 本定値 負	$r(u, v) = (x(u) \cos v, x(u) \sin v, y(u), w(u)) \quad u \in J, \quad v \in [0, 2\pi]$ $y(u) = (x(u)^2 + 1)^{1/2} \cos \varphi(u)$ $w(u) = (x(u)^2 + 1)^{1/2} \sin \varphi(u)$ $x(u) = \exp\left(\int_0^u \frac{dt}{\epsilon f(t) - t}\right)$ $\varphi(u) = - \int_0^u \frac{(x'(t)^2 - \epsilon x(t)^2 - \epsilon)^{1/2}}{x(t)^2 + 1} dt$
--	--

(ii) positive definite で $0 < x < 1$ のとき

$$\begin{aligned} r(u, v) &= (y(u), z(u), x(u) \cos v, x(u) \sin v) \quad u \in J, \quad v \in [0, 2\pi] \\ y(u) &= (x(u)^2 - 1)^{1/2} \cos \varphi(u) \\ z(u) &= (x(u)^2 - 1)^{1/2} \sin \varphi(u) \\ x(u) &= \exp\left(\int_0^u \frac{dt}{\epsilon f(t) - t}\right) \\ \varphi(u) &= \int_0^u \frac{(\epsilon x(t)^2 - x'(t)^2 - \epsilon)^{1/2}}{1 - x(t)^2} dt \end{aligned}$$

Proof. P^2 を \mathbb{E}_2^4 の negative definite だとすると、一般性を失うことなく以下のように書ける。

$$\begin{aligned} P^2 &= \text{span}(e_3, e_4) \\ P^3 &= \text{span}(e_1, e_3, e_4) = (x_1, 0, x_3, x_4) \in \mathbb{E}_2^4 \end{aligned}$$

また、

$$\mathbb{H}_1^3 = \{(x_1, x_2, x_3, x_4) \in E_2^4 \mid x_1^2 + x_2^2 - x_3^2 - x_4^2 = -1\}$$

より、

$$\mathbb{H}_1^3 \cap P^3 = \{(x_1, 0, x_3, x_4) \in E_2^4 \mid x_1^2 - x_3^2 - x_4^2 = -1\}$$

となり、これらのうちの曲線 $(x_1, 0, x_3, x_4) = \gamma(u)$ が P^2 と交わらないのは $x_1(u) \neq 0$ となるときである。

定義. 5.1. $T(x) = Ax + b$ (ただし A は 4 次正方行列で

$$A^t Z A = Z \quad Z = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & -1 \end{pmatrix}$$

を満たす。) ものを \mathbb{E}_2^4 の直交変換群と呼び、直交変換群全体のなす集合を $O(E_2^4)$ と表す。

補題 5.1.

$$A = \begin{pmatrix} \cos v & -\sin v & 0 & 0 \\ \sin v & \cos v & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

とすると、 $A \in SO(2, 2)$ かつ $A \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix}$ を満たす。

よって、

$$O(P^2) = \left\{ \begin{pmatrix} \cos v & -\sin v & 0 & 0 \\ \sin v & \cos v & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \mid v \in \mathbb{R} \right\}$$

とすると,

$$A\gamma(u) = \begin{pmatrix} \cos v & -\sin v & 0 & 0 \\ \sin v & \cos v & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ 0 \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x_1 \cos v \\ x_1 \sin v \\ x_3 \\ x_4 \end{pmatrix}$$

以上の議論により,

$$r(u, v) = (x(u) \cos v, x(u) \sin v, y(u), w(u)), \quad u \in J, \quad v \in [0, 2\pi] \quad (5.1)$$

を得る. 以降, この曲面を M'_1 とする.

次に, P^2 を positive definite だとすると, 一般性を失うことなく以下のように書ける.

$$\begin{aligned} P^2 &= \text{span}(e_1, e_2) \\ P^3 &= \text{span}(e_1, e_2, e_3) = (x_1, x_2, x_3, 0) \in \mathbb{E}_2^4 \end{aligned}$$

よって,

$$\mathbb{H}_1^3 \cap P^3 = \{(x_1, x_2, x_3, 0) \in \mathbb{E}_2^4 \mid x_1^2 + x_2^2 - x_3^2 = -1\}$$

となり, これらのうちの曲線 $(x_1, x_2, x_3, 0) = \gamma(u)$ が P^2 と交わらないのは $x_3(u) \neq 0$ となるときである.

補題 5.2.

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & \cos v & -\sin v \\ 0 & 0 & \sin v & \cos v \end{pmatrix}$$

とすると, $A \in SO(2, 2)$ かつ $A = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ をみたす.

よって,

$$r(u, v) = (y(u), z(u) \underset{\cos v}{\sin v}, x(u) \underset{\cos v}{\sin v})$$

を得る. 以降この曲面を M'_2 とする.

まず初めに M'_1 の曲面の関数の決定を行うために M'_1 の主曲率を計算する.

補題 5.3. 曲面 M'_1 に対して法線ベクトル場 ξ'_1 は,

$$\xi'_1(u, v) = \begin{pmatrix} (y'(u)w(u) - w'(u)y(u)) \cos v \\ (y'(u)w(u) - w'(u)y(u)) \sin v \\ x'(u)w(u) - w'(u)x(u) \\ y'(u)x(u) - x'(u)y(u) \end{pmatrix} \quad (5.2)$$

と, $\langle \xi'_1, r_u \rangle = \langle \xi'_1, r_v \rangle = \langle \xi'_1, r \rangle = 0$, $\langle \xi'_1, \xi'_1 \rangle = \epsilon$ が成立する. ただし, $r_u = \frac{\partial r(u, v)}{\partial u}$, $r_v = \frac{\partial r(u, v)}{\partial v}$ である.

Proof. 曲面 M'_1 に対し,

$$\langle r, r \rangle = x^2 - y^2 - z^2 \quad (5.3)$$

$$r_u = (x' \cos v, x' \sin v, y', w') \quad (5.4)$$

$$r_v = (-x \sin v, x \cos v, 0, 0) \quad (5.5)$$

$$E = \left(\begin{array}{l} \langle r_u, r_u \rangle = x'^2 - y'^2 - z'^2 := \epsilon \\ \langle r_v, r_v \rangle = x^2 \end{array} \right) \quad (5.6)$$

$$F = \left(\begin{array}{l} \langle r_u, r_v \rangle = x^2 \\ \langle r_v, r_u \rangle = 0 \end{array} \right) \quad (5.7)$$

$$G = \left(\begin{array}{l} \langle r_u, r_v \rangle = 0 \end{array} \right) \quad (5.8)$$

が成り立つ. 特に, $\langle r_v, r_v \rangle = x(u)^2$ より, $x(u) > 0$ としてよい. よって,

$$|r_u \times r_v| = \sqrt{|\langle r_u, r_u \rangle \langle r_v, r_v \rangle - \langle r_u, r_v \rangle^2|}$$

$$= x(u)$$

また,

$$r_u \times r_v = \begin{pmatrix} (y'(u)w(u) - w'(u)y(u)) \cos v \\ (y'(u)w(u) - w'(u)y(u)) \sin v \\ x'(u)w(u) - w'(u)x(u) \\ y'(u)x(u) - x'(u)y(u) \end{pmatrix} x(u)$$

であるので,

$$\xi'_1 = \frac{r_u \times r_v}{|r_u \times r_v|} = \begin{pmatrix} (y'(u)w(u) - w'(u)y(u)) \cos v \\ (y'(u)w(u) - w'(u)y(u)) \sin v \\ x'(u)w(u) - w'(u)x(u) \\ y'(u)x(u) - x'(u)y(u) \end{pmatrix}$$

となる. □

主曲率を求めるために第2基本量を計算する. 曲面 M'_1 に対し,

$$r_{uu} = (x'' \cos v, x'' \sin v, y'', w'') \quad (5.9)$$

$$r_{vv} = (-x \cos v, -x \sin v, 0, 0) \quad (5.10)$$

$$r_{uv} = (-x' \sin v, x' \cos v, 0, 0) \quad (5.11)$$

と, 補題 5.3 より,

$$\begin{aligned} \langle \xi'_1, r_{uu} \rangle &= x''(y'w - w'y) - y''(x'w - w'x) - w''(y'x - x'y) \\ &= x(w'y'' - y'w'') + x'(yw'' - wy'') + x''(y'w - w'y) \end{aligned} \quad (5.12)$$

$$\langle \xi'_1, r_{vv} \rangle = -x(y'w - w'y) \quad (5.13)$$

$$\langle \xi'_1, r_{uv} \rangle = 0 \quad (5.14)$$

となる. よって, (5.6) ~ (5.8), (5.12) ~ (5.14) を用いて主曲率 k_1, k_2 を計算すると,

$$k_1 = \epsilon \{x(w'y'' - y'w'') + x'(yw'' - wy'') + x''(y'w - w'y)\} \quad (5.15)$$

$$k_2 = -x^{-1}(y'w - w'y) \quad (5.16)$$

となる. 次に, x, y, z の関数の決定を行う. $x(u) > 0$ であることに注意すると, (5.3) より, $x^2 + 1 = y^2 + w^2 > 0$ より,

$$\begin{aligned} y(u) &= (x^2 + 1)^{1/2} \cos \varphi(u) \\ w(u) &= (x^2 + 1)^{1/2} \sin \varphi(u) \end{aligned}$$

を代入することができる. (y, w を逆にしても良い.) このとき, (5.6) に各関数を代入することで,

$$\varphi'(u)^2 = \frac{x'^2 - \epsilon x^2 - \epsilon}{(x^2 + 1)^2} \quad (5.17)$$

を得る. J 上で $x'^2 - \epsilon x^2 - \epsilon > 0$ と仮定する. (任意の $u \in J$ に対し $x'^2 - \epsilon x^2 - \epsilon = 0$ とすると $\varphi(u)$ は定数.) よって関数 $\varphi(u)$ は

$$\begin{aligned} x'^2 - \epsilon x^2 - \epsilon &> 0 \\ \varphi(u) &= \pm \int_0^u \frac{(x'^2 - \epsilon x^2 - \epsilon)^{1/2}}{x^2 + 1} \end{aligned}$$

となる. このとき, 一般性を失うことなく符号は負と仮定して良い. (命題 7.1) を参照よって,

$$\begin{aligned} x'^2 - \epsilon x^2 - \epsilon &> 0 \\ \varphi(u) &= - \int_0^u \frac{(x'^2 - \epsilon x^2 - \epsilon)^{1/2}}{x^2 + 1} \end{aligned} \quad (5.18)$$

となる. さらに, 各関数と 5.18 を用いることで

$$y'w - w'y = (x'^2 - \epsilon x^2 - \epsilon)^{1/2} \quad (5.19)$$

$$yw'' - wy'' = \frac{-x'x'' + \epsilon xx'}{y'w - w'y} \quad (5.20)$$

$$w'y'' - y'w'' = \frac{xx''\epsilon - \epsilon x'^2 + 1}{y'w - w'y} \quad (5.21)$$

を得る. (5.19) ~ (5.21) を (5.15), (5.16) に代入することで,

$$\begin{aligned} k_1 &= \epsilon \left(\frac{x - \epsilon x''}{y'w - w'y} \right) = \epsilon \left(\frac{x - \epsilon x''}{-xt} \right) := f(t) \\ k_2 &= -x^{-1}(y'w - w'y) := t \end{aligned} \quad (5.22)$$

を得る. 最後に定理 2.1 と同様の計算により

$$x(u) = \exp \int_0^u \left(\frac{dt}{\epsilon f(t) - t} \right) \quad (5.23)$$

となり, 定理 5.1 の前半を得る.

曲面 M'_2 に対しても同様に関数の決定を行う.

補題 5.4. 曲面 M'_2 に対して法線ベクトル場 ξ'_2 は,

$$\xi'_2(u, v) = \begin{pmatrix} z'x - x'z \\ x'y - y'x \\ (z'y - y'z) \cos v \\ (z'y - y'z) \sin v \end{pmatrix} \quad (5.24)$$

と, $\langle \xi'_1, r_u \rangle = \langle \xi'_1, r_v \rangle = \langle \xi'_1, r \rangle = 0$, $\langle \xi'_1, \xi'_1 \rangle = \epsilon$ が成立する. ただし, $r_u = \frac{\partial r(u, v)}{\partial u}$, $r_v = \frac{\partial r(u, v)}{\partial v}$ である.

$$\begin{bmatrix} + & + & - \\ - & - & \end{bmatrix}$$

Proof. 曲面 M'_2 に対し,

$$\langle r, r \rangle = y^2 + z^2 - x^2 \quad (5.25)$$

$$r_u = (y', z', x' \cos v, x' \sin v) \quad (5.26)$$

$$r_v = (0, 0, -x \sin v, x \cos v) \quad (5.27)$$

$$\langle r_u, r_u \rangle = y'^2 + z'^2 - x'^2 := \frac{1}{\|r_u\|^2} \quad (5.28)$$

$$\langle r_v, r_v \rangle = -x^2 \quad (5.29)$$

$$\langle r_u, r_v \rangle = 0 \quad (5.30)$$

が成り立つ。特に、 $\langle r_v, r_v \rangle = -x(u)^2 < 0$ より、 $x(u) > 0$ としてよい。よって、

$$\begin{aligned} \xi_2 &= \frac{r_u \times r_v}{\|r_u \times r_v\|} \\ \|r_u \times r_v\| &= \sqrt{|\langle r_u, r_u \rangle \langle r_v, r_v \rangle - \langle r_u, r_v \rangle^2|} \\ &= x(u) \end{aligned}$$

また、

$$r_u \times r_v = \begin{pmatrix} z'x - x'z \\ x'y - y'x \\ (z'y - y'z) \cos v \\ (z'y - y'z) \sin v \end{pmatrix} x(u)$$

であるので、

$$\xi'_2 = \frac{r_u \times r_v}{\|r_u \times r_v\|} = \begin{pmatrix} z'x - x'z \\ x'y - y'x \\ (z'y - y'z) \cos v \\ (z'y - y'z) \sin v \end{pmatrix}$$

となる。 \square

主曲率を求めるために第2基本量を計算する。曲面 M'_2 に対し、

$$r_{uu} = (y'', z'', x'' \cos v, x'' \sin v) \quad (5.31)$$

$$r_{vv} = (0, 0, -x \cos v, -x \sin v) \quad (5.32)$$

$$r_{uv} = (0, 0, -x' \sin v, x' \cos v) \quad (5.33)$$

と、補題 5.4 より、

$$\langle \xi'_2, r_{uu} \rangle = x(y''z' - z''y') + x'(z''y - y''z) + x''(y'z - z'y) \quad (5.34)$$

$$(5.35)$$

$$\langle \xi'_1, r_{vv} \rangle = x(y'z - z'y) \quad (5.36)$$

$$\langle \xi'_1, r_{uv} \rangle = 0 \quad (5.37)$$

となる。よって、(5.28)～(5.30), (5.35)～(5.37) を用いて主曲率 k_1, k_2 を計算すると、

$$k_1 = \frac{1}{\|r_u\|^2} \{x(y''z' - z''y') + x'(z''y - y''z) + x''(y'z - z'y)\} \quad (5.38)$$

$$k_2 = -x^{-1}(y'z - z'y) \quad (5.39)$$

$$\langle r, r \rangle = y^2 + z^2 - x^2$$

となる。次に、 x, y, z の関数の決定を行う。 $x(u) > 0$ であることに注意すると、(5.25) より、 $x^2 - 1 = y^2 + z^2 > 0$ より、

$$y(u) = (x^2 - 1)^{1/2} \cos \varphi(u)$$

$$w(u) = (x^2 - 1)^{1/2} \sin \varphi(u)$$

を代入することができる。 (y, w) を逆にしても良い。このとき、(5.28) に各関数を代入することで、

$$\varphi'(u)^2 = \frac{\epsilon x^2 - x'^2 - \epsilon}{(x^2 - 1)^2} \quad (5.40)$$

を得る。 J 上で $\epsilon x^2 - x'^2 - \epsilon > 0$ と仮定する。(任意の $u \in J$ に対し $x'^2 - \epsilon x^2 - \epsilon = 0$ とすると $\varphi(u)$ は定数。) よって関数 $\varphi(u)$ は

$$\epsilon x^2 - x'^2 - \epsilon > 0$$

$$\varphi(u) = \pm \int_0^u \frac{(\epsilon x^2 - x'^2 - \epsilon)^{1/2}}{x^2 - 1}$$

となる。このとき、一般性を失うことなく符号は負と仮定して良い。(命題 7.1) を参照よって、

$$\epsilon x^2 - x'^2 - \epsilon > 0$$

$$\varphi(u) = - \int_0^u \frac{(\epsilon x^2 - x'^2 - \epsilon)^{1/2}}{x^2 - 1} \quad (5.41)$$

となる。さらに、各関数と (5.41) を用いることで

$$y'z - z'y = (\epsilon x^2 - x'^2 - \epsilon)^{1/2} \quad (5.42)$$

$$z''y - y''z = \frac{x'x'' - \epsilon xx'}{y'z - z'y} \quad (5.43)$$

$$z'y'' - y'z'' = \frac{-xx''\epsilon + \epsilon x'^2 + 1}{y'z - z'y} \quad (5.44)$$

を得る。(5.42) ~ (5.44) を (5.38), (5.39) に代入することで、

$$k_1 = \frac{x - \epsilon x''}{y'z - z'y} = \frac{x - \epsilon x''}{-xt} := f(t)$$

$$k_2 = -x^{-1}(y'z - z'y) := t \quad (5.45)$$

を得る。最後に定理 2.1 と同様の計算により

$$x(u) = \exp \int_0^u \left(\frac{dt}{\epsilon f(t) - t} \right) \quad (5.46)$$

となり、定理 5.1 が成り立つ。

□

6 \mathbb{H}_1^3 における双曲的回転面

定理. 6.1. 最後に、 M を 3 次元 anti de sitter space の Weingarten 双曲面とすると、 M の主曲率 K_1, k_2 は $k_2 = f(k_1)$ を満たし、以下の双曲的回転面として書くことができる。

(i) $z(u) \neq 0$ のとき

$$\begin{aligned} r(u, v) &= (y(u), z(u) \cosh v, z(u) \sinh v, w(u)) & u \in J, & v \in \mathbb{R} \\ y(u) &= (z(u)^2 + 1)^{1/2} \sinh \varphi(u) \\ w(u) &= (z^2 + 1)^{1/2} \cosh \varphi(u) \\ z(u) &= \exp\left(\int_0^u \frac{dt}{\epsilon f(t) - t}\right) \\ \varphi(u) &= \int_0^u \frac{(\epsilon z(t)^2 - z'(t)^2 + \epsilon)^{1/2}}{z(t)^2 + 1} dt \end{aligned}$$

(ii) $z(u) > 1, z(u) \neq 0, z(u) \neq 1$ のとき

$$\begin{aligned} r(u, v) &= (y(u), z(u) \sinh v, z(u) \cosh v, w(u)) & u \in J, & v \in \mathbb{R} \\ y(u) &= (z(u)^2 - 1)^{1/2} \cosh \varphi(u) \\ w(u) &= (z^2 - 1)^{1/2} \sinh \varphi(u) \\ z(u) &= \exp\left(\int_0^u \frac{dt}{\epsilon f(t) - t}\right) \\ \varphi(u) &= \int_0^u \frac{(-\epsilon z(t)^2 + z'(t)^2 + \epsilon)^{1/2}}{z(t)^2 - 1} dt \end{aligned}$$

もしくは, $0 < z < 1$ のとき

$$\begin{aligned} r(u, v) &= (y(u), z(u) \sinh v, z(u) \cosh v, w(u)) & u \in J, & v \in \mathbb{R} \\ y(u) &= (1 - z(u)^2)^{1/2} \sinh \varphi(u) \\ w(u) &= (1 - z(u)^2)^{1/2} \cosh \varphi(u) \\ z(u) &= \exp\left(\int_0^u \frac{dt}{\epsilon f(t) - t}\right) \\ \varphi(u) &= \int_0^u \frac{(-\epsilon z(t)^2 + z'(t)^2 + \epsilon)^{1/2}}{z(t)^2 - 1} dt \end{aligned}$$

Proof. P^2 を \mathbb{E}_2^4 のローレンツ部分空間とすると, P^2, P^3 は一般性を失わず以下のように書ける.

$$P^2 = \text{span}(e_1, e_4)$$

$$P^3 = \text{span}(e_1, e_2, e_4) = (x_1, x_2, 0, x_4) \in \mathbb{E}_2^4$$

$$\mathbb{H}_1^3 \cap P^3 = \{(x_1, x_2, x_3, x_4) \in \mathbb{E}_2^4 | x_1^2 + x_2^2 - x_4^2 = -1\}$$

よって、曲線 $(x_1, x_2, 0, x_4) = \gamma(u)$ が P^2 と交わらないのは、 $x_2(u) \neq 0$ となるときである。さらに、

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & \cosh v & \sinh v & 0 \\ 0 & \sinh v & \cosh v & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

とすると、補題 5.1 と同様の議論により

$$r(u, v) = (y(u), z(u) \cosh v, z(u) \sinh v, w(u)) \quad u \in J, \quad v \in \mathbf{R} \quad (6.1)$$

を得る。以降、この曲面を M'_3 とする。さらに、 P^3 を取り換えることにより、

$$r(u, v) = (y(u), z(u) \sinh v, z(u) \cosh v, w(u)) \quad u \in J, \quad v \in \mathbf{R} \quad (6.2)$$

を得る。この曲面を M'_4 とする。

補題 6.1. 曲面 M'_3 に対して法線ベクトル場 ξ'_3 は、

$$\xi'_3(u, v) = \begin{pmatrix} w'(u)z(u) - z'(u)w(u) \\ y'(u)w(u) - w'(u)y(u) \cosh v \\ (y'(u)w(u) - w'(u)y(u)) \sinh v \\ (y'(u)z(u) - z'(u)y(u)) \end{pmatrix} \quad (6.3)$$

と、 $\langle \xi_1, r_u \rangle = \langle \xi_1, r_v \rangle = \langle \xi_1, r \rangle = 0$, $\langle \xi_1, \xi_1 \rangle = -\epsilon$ が成立する。ただし、 $r_u = \frac{\partial r(u, v)}{\partial u}$, $r_v = \frac{\partial r(u, v)}{\partial v}$ である。

主曲率を求めるために第 1 基本量と第 2 基本量を計算する。曲面 M_2 に対し、

$$\langle r, r \rangle = x^2 + y^2 - w^2 = 1 \quad (6.4)$$

$$r_u = (x'(u), y'(u), w'(u) \sinh v, w'(u) \cosh v) \quad (6.5)$$

$$r_v = (0, 0, w(u) \cosh v, w(u) \sinh v) \quad (6.6)$$

より、

$$\langle r_u, r_u \rangle = y'(u)^2 + z'(u)^2 - w'(u)^2 = \epsilon \quad (6.7)$$

$$\langle r_v, r_v \rangle = -z(u)^2 \quad (6.8)$$

$$\langle r_u, r_v \rangle = 0 \quad (6.9)$$

である。特に、 $\langle r_v, r_v \rangle = -z(u)^2 < 0$ より、 $z(u) > 0$ としてよい。

さらに、

$$r_{uu} = (y''(u), z''(u) \cosh v, z''(u) \sinh v, w''(u))$$

$$r_{uv} = (0, z(u) \cosh v, z(u) \sinh v, 0)$$

$$r_{vv} = (0, z'(u) \cosh v, z'(u) \sinh v, 0)$$

より、補題 6.1 を用いることで、

$$\begin{aligned}\langle \xi'_3, r_{uu} \rangle &= y''(w'z - z'w) + z''(y'w - w'y) - w''(y'z - z'y) \\ &= z(y''w' - w''y') + z'(w''y - y''w) + w''(y'w - w'y)\end{aligned}\quad (6.10)$$

$$\langle \xi'_3, r_{vv} \rangle = z(y'w - w'y) \quad (6.11)$$

$$\langle \xi'_3, r_{uv} \rangle = 0 \quad (6.12)$$

を得る。以上より、(6.7) ~ (6.9), (6.10) ~ (6.10) を用いて主曲率 k_1, k_2 を計算すると、

$$k_1 = \epsilon \{ z(y''w' - w''y') + z'(w''y - y''w) + w''(y'w - w'y) \} \quad (6.13)$$

$$k_2 = -z^{-1}(y'w - w'y) \quad (6.14)$$

を得る。

次に、 y, z, w の関数の決定を行う。 $z(u) > 0$ であることに注意する。 $\langle r, r \rangle = y^2 + z^2 - w^2 = -1$ を用いると、

$$w(u) = (z(u)^2 + 1)^{1/2} \cosh \varphi(u) \quad (6.15)$$

$$y(u) = (z(u)^2 + 1)^{1/2} \sinh \varphi(u) \quad (6.16)$$

を得る。また、この関数を (6.7) に代入することで、

$$\varphi'(u)^2 = \frac{\epsilon z^2 - z'^2 + \epsilon}{(z^2 + 1)^2}$$

を得る。 J 上で $\epsilon z^2 - z'^2 + \epsilon > 0$ と仮定する。(任意の $u \in J$ に対し、 $\epsilon z^2 - z'^2 + \epsilon = 0$ のとき、 φ は定数。) よって、関数 $\varphi(u)$ は

$$\begin{aligned}\epsilon z^2 - z'^2 + \epsilon &> 0 \\ \varphi(u) &= \pm \int_0^u \frac{(\epsilon z^2 - z'^2 + \epsilon)^{1/2}}{z^2 + 1}\end{aligned}$$

となる。このとき、一般性を失うことなく、符号は正と仮定して良い。(命題 7.1を参照) よって、

$$\begin{aligned}\epsilon z^2 - z'^2 + \epsilon &> 0 \\ \varphi(u) &= \int_0^u \frac{(\epsilon z^2 - z'^2 + \epsilon)^{1/2}}{z^2 + 1}\end{aligned}\quad (6.17)$$

となる。 $(6.15), (6.16), (6.4), (6.7), (6.17)$ を用いることで、

$$y'w - w'y = (\epsilon z^2 - z'^2 + \epsilon)^{1/2} \quad (6.18)$$

$$w''y - y''w = \frac{(-\epsilon z z' + z' z'')}{y'w - w'y} \quad (6.19)$$

$$y''w' - w''y' = \frac{-\epsilon z z'' + \epsilon z'^2 - 1}{y'w - w'y} \quad (6.20)$$

を得るので、(6.18) ~ (6.20) を主曲率 (6.13), (6.14) に代入することで、

$$k_1 = \epsilon \frac{-z + \epsilon z''}{-tz} \quad (6.21)$$

$$=: f(t) \quad (6.22)$$

$$k_2 = -z^{-1}(\epsilon z^2 - z'^2 + \epsilon)^{1/2} =: t \quad (6.23)$$

となる。以降、定理 2.1 と同様の計算により

$$z(u) = \exp\left(\int_0^u \frac{dt}{\epsilon f(t) - t}\right) \quad (6.24)$$

を得る。以上より、定理 6.1 の前半 (i) を得る。

最後に定理 6.1 の (ii) を示す。

補題 6.2. 曲面 M'_4 に対して法線ベクトル ξ'_4 は、

$$\begin{pmatrix} -w'(u)z(u) + z'(u)w(u) \\ y'(u)w(u) - w'(u)y(u) \sinh v \\ (y'(u)w(u) - w'(u)y(u)) \cosh v \\ -(y'(u)z(u) - z'(u)y(u)) \end{pmatrix}$$

と、 $\langle \xi_1, r_u \rangle = \langle \xi_1, r_v \rangle = \langle \xi_1, r \rangle = 0$, $\langle \xi_1, \xi_1 \rangle = 1$ が成立する。ただし、 $r_u = \frac{\partial r(u, v)}{\partial u}$, $r_v = \frac{\partial r(u, v)}{\partial v}$ である。

主曲率を求めるために第 1 基本量と第 2 基本量を計算する。曲面 M'_4 に対し、

$$\langle r, r \rangle = y^2 - z^2 - w^2 = -1 \quad (6.25)$$

$$r_u = (y'(u), z'(u) \sinh v, z'(u) \cosh v, w'(u)) \quad (6.26)$$

$$r_v = (0, z(u) \cosh v, z(u) \sinh v, 0) \quad (6.27)$$

より、

$$\langle r_u, r_u \rangle = y'(u)^2 - z'(u)^2 - w'(u)^2 = -1 \quad (6.28)$$

$$\langle r_v, r_v \rangle = z(u)^2 \quad (6.29)$$

$$\langle r_u, r_v \rangle = 0 \quad (6.30)$$

である。特に、 $\langle r_v, r_v \rangle = z(u)^2 > 0$ より、 $z(u) > 0$ としてよい。

さらに、

$$r_{uu} = (y''(u), z''(u) \sinh v, z''(u) \cosh v, w'')$$

$$r_{vv} = (0, z(u) \sinh v, z(u) \cosh v, 0)$$

$$r_{uv} = (0, z'(u) \sinh v, z'(u) \cosh v, 0)$$

より、補題 6.2 を用いることで、

$$\langle \xi'_4, r_{uu} \rangle = z(w''y' - y''w') + z'(y''w - w''y) + z''(w'y - y'w) \quad (6.31)$$

$$\langle \xi_2, r_{vv} \rangle = -z(y'w - w'y) \quad (6.32)$$

$$\langle \xi_2, r_{uv} \rangle = 0 \quad (6.33)$$

を得る。以上より、(6.28) ~ (6.30), (6.31) ~ (6.33) を用いて主曲率 k_1, k_2 を計算すると、

$$k_1 = \epsilon \{ z(w''y' - y''w') + z'(y''w - w''y) + z''(w'y - y'w) \} \quad (6.34)$$

$$k_2 = -z^{-1}(y'w - w'y) \quad (6.35)$$

を得る. 次に y, z, w の関数の決定を行う. $z(u) > 0$ であることに注意し, $z(u) \neq 1$ であると仮定する. $\langle r, r \rangle = y^2 - z^2 - w^2 = -1$ を用いると,

$$\textcircled{1} z > 1$$

$$y(u) = (z(u)^2 - 1)^{1/2} \cos \varphi(u)$$

$$w(u) = (z(u)^2 - 1)^{1/2} \sin \varphi(u)$$

$$\textcircled{2} 0 < z < 1$$

$$y(u) = (1 - z(u)^2)^{1/2} \sin \varphi(u)$$

$$w(u) = (1 - z(u)^2)^{1/2} \cos \varphi(u)$$

を代入することができる. 初めに①の時を考える. ①の関数を (6.30) に代入することで,

$$\varphi'(u)^2 = \frac{-(\epsilon z^2 - z'^2 - \epsilon)}{(z^2 - 1)^2} \quad (6.36)$$

を得る. J 上で $\epsilon z^2 - z'^2 - \epsilon > 0$ と仮定する. ($\epsilon z^2 - z'^2 - \epsilon = 0$ の時, φ は定数. よって, 関数 $\varphi(u)$ は

$$\epsilon z^2 - z'^2 - \epsilon > 0$$

$$\varphi(u) = \pm \int_0^u \frac{-(\epsilon z^2 - z'^2 - \epsilon > 0)^{1/2}}{(z(t))^2 - 1} dt$$

となる. このとき, 一般性を失うことなく符号は正と仮定して良い. (命題 7.1 を参照) よって,

$$\epsilon z^2 - z'^2 - \epsilon > 0 \quad (6.37)$$

$$\varphi(u) = \int_0^u \frac{(\epsilon z^2 - z'^2 - \epsilon > 0)^{1/2}}{(w(t))^2 - 1} dt \quad (6.38)$$

となる. これまでの議論と同様に,

$$w'y - y'w = (-\epsilon z^2 + z'^2 + \epsilon)^{1/2} \quad (6.39)$$

$$w''y - y''w = \frac{-\epsilon zz' + z'z''}{w'y - y'w} \quad (6.40)$$

$$y''w' - w''y' = \frac{-\epsilon zz'' + \epsilon z'^2 - 1}{w'y - y'w} \quad (6.41)$$

を得るので, 主曲率 k_1, k_2 は

$$k_1 = \epsilon \left\{ \frac{\epsilon z'' + Z}{w'y - y'w} \right\} \quad (6.42)$$

$$:= \epsilon \left(\frac{\epsilon z'' + z}{zt} \right) := f(t) \quad (6.43)$$

$$k_2 = z^{-1}(w'y - y'w) := t \quad (6.44)$$

となり,

$$z(u) = \exp \left(\int_0^u \frac{dt}{\epsilon f(t) - t} \right) \quad (6.45)$$

を得る. 同様に②の場合も計算し結果を得る. このとき, $\varphi(u) < 0$ として計算することに注意する.

以上より, 定理 6.1 を得る.

□

7 付録

命題 7.1 ($\varphi(u)$ の符号のつけ方). 関数 $\varphi(u)$ は

$$\begin{aligned} \epsilon y^2 + y'^2 - \epsilon &> 0 \\ \varphi(u) &= \pm \int_0^u \frac{(\epsilon y^2 + y'^2 - \epsilon)^{1/2}}{|y(t)^2 - 1|} dt \end{aligned}$$

という形で書ける. このとき, 一般性を失うことなく, 符号は $y^2 - 1 > 0$ の時に正, $y^2 - 1 < 0$ の時に負と仮定して良い.

Proof. 曲面を作る際に,

$$B = \begin{pmatrix} -1 & & & \\ & 1 & & \\ & & -1 & \\ & & & 1 \end{pmatrix} \in SO(3, 1)$$

とすれば,

$$Br(u, v) = \begin{pmatrix} -y \sin v \\ y \cos v \\ -(y^2 - 1)^{1/2} \sin \varphi \\ (y^2 - 1)^{1/2} \cos \varphi \end{pmatrix} = \tilde{r}(u, v) \quad (7.1)$$

とおくことで, $\varphi(u) \mapsto -\varphi(u)$ に取り換えることができる. \square

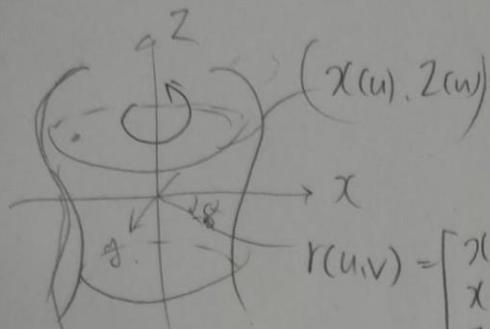
よって,

$$\epsilon y^2 + y'^2 - \epsilon > 0 \quad (7.2)$$

$$\varphi(u) = \int_0^u \frac{(\epsilon y^2 + y'^2 - \epsilon)^{1/2}}{|y(t)^2 - 1|} dt \quad (7.3)$$

となる.

※ 2-7) の場合 $\langle \cdot, \cdot \rangle = x_1 y_1 + x_2 y_2 + x_3 y_3$



$$r(u, v) = \begin{bmatrix} x(u) \cos v \\ x(u) \sin v \\ z(u) \end{bmatrix}$$

3D 117x7
Y, Z 113.

$$\begin{cases} E = (y')^2 + (x')^2 = 1 \\ F = 0 \\ G = y^2 > 0 \end{cases}$$

$$\text{法線ベクトル } \xi(u, v) = \begin{bmatrix} -x' \cos v \\ -x' \sin v \\ y' \end{bmatrix}$$

$$r_{uu} = (\gamma'' \cos v, \gamma'' \sin v, x'')$$

$$r_{vv} = (-\gamma \cos v, -\gamma \sin v, 0)$$

$$\begin{cases} L = -\gamma'' x' + x'' \gamma' \\ M = 0 \\ N = x' y' \end{cases}$$

$$K_1 = -\gamma'' x' + x'' \gamma' =: f(t)$$

$$K_2 = \gamma' x' =: t$$

~~K1~~

$$\begin{cases} x' = \gamma t \\ x'' = \gamma' t + \gamma t' \end{cases}$$